

CVV写真・絵画合同展示会

「歴史街道を行く」について



平成22年12月 日

CVVギャラリー 担当  
藤田 昭治



平成 22 年 10 月 6 日 撮影

## 目 次

ごあいさつ	1
私たち CVV メンバーの展示会にようこそ 写真と絵画でみる竹内街道 写真と絵画のコラボレーション コラボレーションの試み	
絵画のテーマを求めて竹内街道を歩く	5
1 竹内街道の伝統的景観	
2 磯長山 叡福寺	
3 禅林寺 当麻寺	
4 蓮土山 道明尼寺	
5 佛頭山 橘寺	
写真と絵画の作品展	10
1 写真と絵画の作品展目録	
2 絵画作品展のリストと絵画作品展作品	
3 展示会場の対話と新聞記事	
あ と が き	18
ご案内用ポスター	19
— 写真を添付したご案内用ポスター — 絵画を添付したご招待用ハガキ	
参考資料	21

## ごあいさつ

私たち CVV メンバーの展示会によるこそ

皆様、私たちは大阪市役所や一般企業をすでに退職した土木技術者の集団で、Civil, Veteran, Volunteers(略称、CVV)と名付け、今までの仕事を通じて培ってきた土木技術を活用して現役世代を応援したり、広く市民の方々に土木技術に対する理解を深めていただくための施設見学会や勉強会などを行っている団体です。当然のことながら、全てボランティアで行っています。

また、この会員の中には、写真や絵画を趣味にしている者もあり、余暇を利用してお互いに切磋琢磨するのを楽しみにしています。

今回はこの趣味の部分で、写真と絵画のコラボレーションを企画してみました。

写真と絵画のメンバーが「歴史街道に行く」という共通のテーマで作品を作りここに展示させていただきました。

お気軽にご高覧下さい。

平成 22 年 12 月

CVV ギャラリー

## 写真と絵画でみる竹内街道

古代、大和朝廷の時代は、飛鳥に都があり、現在の中央区  
の難波の宮との間に大きな街道が通っていました。この街道  
が竹内街道として今注目されている道です。西暦 613 年に  
造営されたと言われてています。

当時は遣隋使に見られるように大陸との交流が盛んで、人、  
物、技術、文化の輸入がこの街道によって行われ、古代文化  
が繁栄しました。聖徳太子の活躍もこの時代です。

現在でも街道沿いには、現代文明に覆い隠されつつも、多  
くの遺跡が残されているほか、古代を感じさせる雰囲気も漂  
っているように思われます。

この展覧会は、このような雰囲気をカメラによる一瞬の動  
きの切り取りや、絵画のゆったりとした描写を通じて表現し  
ようとしたものです。

皆様方には、これらから悠久の歴史のほんの一部でも感じ  
取っていただければ、私たちは望外の幸せでございます。  
どうぞご高覧下さい。

平成 22 年 12 月

出展者一同

## 写真と絵画のコラボレーション

写真家が被写体の静と動のその一瞬を、カメラを使ってシャープに切り取ったものが写真、そして画家がその目を透して、風物の景色やその詩情を意図的に描き出したものが絵画といえるでしょう。

写真は光による形象で、写實的、科学的且つ神秘的な素晴らしい作品であり、人々を魅了し感動を与えると同時に、その実態を科学的に証明するものです。

一方絵画は自然の風物のありさまを人の目で捉えて、絵具を使って色々の手法或いは個性的な作風で、悠久の空間の中に描き出すもの。人々はその作品と対話し感動し魅了される。

言い換えると、写真も絵画も見る人は作家とその時間を共有し、作家の意図を探究して心を豊かにするものと思われます。

この展示会は、一瞬をシャープに切り取った写真と悠久の時間を描写した絵画とのコラボレーションです。撮ったり、描いたりしている風物は違っていても、写真と絵画に込められた感性と創造力を感じ取って頂ければ幸いです。

## コラボレーションの試み

今回の展示会は、写真を出展されている廣海泰次郎さんから、「歴史街道を行く」を共通のテーマとする写真と絵画の合同展示会を開催することについてのご提案をいただき実現したものです。おかげさまで絵画も展示できましたこと、厚くお礼を申し上げます次第でございます。

写真と絵画のコラボレーションの試みは、写實的及び印象的など多様な技法と共に、楽しみながら描くことなど考えられますが、今回は下記のような観点から水彩画を描いてみました。ご高覧賜れば幸いです。

### 記

#### テーマと構図

- ・絵になる風物を探していると、テーマに関連する歴史や物語を学び、人や風物など新しい出会いがあり、気力体力も充実して描くことが楽しくなる。
- ・絵画も写真同様、テーマとしての風物の広がりや奥行き及びアングルなどからみて、絵になる構図を切り取る。

#### 光と影の対比

- ・風物の陰影、光と影を対比して画面を引き締めるとともに立体感を出す。
- ・逆光の場合、細部を綿密に描くより、影で塗りつぶした方が印象を強調できて効果的である。
- ・遠景は細い線で細かく、近景は太い線で粗いタッチで描くことによって遠近感を出す。

#### 風物の背景

- ・対象の風物を強調する時、その周りや背景の描写に変化を持たず。写真のボカシやアップをヒントに工夫する。広告など構図に合わない風物を省く。
- ・対象の風物をアピールするための景色を取り込む。

#### 色づかい

- ・色の濃淡や明暗を強調すること、重ね塗りや単色で統一するなど様々な色づかいや、様々な筆のタッチとする。
- ・対象の風物に対応した量感的、刺激的な色調とする。または反対に落ち着いた色づかいをする。

平成 22 年 12 月

絵画出展者一同

## 絵画のテーマを求めて竹内街道を歩く

### 1 竹内街道の伝統的景観

竹内街道は堺市から東へ向かって、二上山南の竹内峠を越えて、葛城市に至る約 26 キロメートルの街道である。二上山は約 510 ㍎の雄岳と約 470 ㍎の雌岳からなり、二神山(二上神社)として古くから崇拝されている。雄岳山上には悲劇の天津皇子の墓がある。

この街道は日本書紀によれば、推古天皇(613 年)の時代に「難波より飛鳥に至る大道を置く」と記されているように、日本最古の官道であるとのこと。

現在の街道は大部分が当時の官道(現在の国道 166 号)と重なっていて、東側は奈良盆地南部を東西に横切る官道横大路(地図を見ると現在の国道 165 号と思われる)につながっている。飛鳥時代に遣唐使としての使節や留学僧が往来し、大陸からの文化をもたらしてくれた基礎となった街道といわれている。

伊勢街道の一部として存続し、現在も地域の幹線である国道 166 号として大いに利用されている。

また、この竹内街道の北約 3 キロを東西に走る長尾街道の一部は、現在の国道 165 号と同じ道といわれている。

竹内街道沿いの竹内集落は松尾芭蕉門人の出身地であり、芭蕉が何度も訪れて数点の俳句を残している。その句碑の綿弓塚があって、現在は公園として整備され休憩所として利用されている。

平成 7 年(1995 年)に、太子町春日から当麻町長尾神社までは、国によって歴史国道「竹内街道・竹内峠」に選定されている。昔の風景を保存し、茅葺大和屋根の旧家など歴史的・文化的風物を復元して、魅力的な空間をつくり、道と地域文化が継承される様に整備されている。



竹内街道 大和屋根の旧山本家とその先の連山 2010.2.7 撮影



## 2 磯長山 史跡 叡福寺

叡福寺は聖徳太子と太子の生母穴穂部間人(あなほべのはしひと)皇后、膳部大郎女(かしわでのいらつめ)妃の三人の墓所を守るために、推古天皇が建てた(622年)とされている。詳しくは聖徳太子御廟所 磯長山(しながさん)叡福寺と号する。

四天王寺、法隆寺とならんで太子信仰の中核をなした寺院である。歴代の天皇や時の権力者、空海、親鸞や日蓮の諸賢聖の他、高僧も参拝したとのこと。

織田信長の兵火に焼かれた(1574年)が、後に後陽成天皇の勅願により豊臣秀頼が再建したといわれている。

多宝塔は1652年、江戸の三谷三九郎に再建され、昭和52年重要文化財の指定を受けている。塔本尊は東面に釈迦、文殊、普賢の三尊像、西面に大日如来を安置し、4本の柱には四天王の像が描かれている。

南大門は1574年の兵火で焼かれ、慶長年間に再建されたが、腐朽したため昭和33年再々建築された。左右に金剛力士が安置されている。南大門から一直線上に二天門と御廟が拝観できる配置になっている。

二天門は「古事類苑」に記されているところによると、1688年に当国丹南藩主高木主水正が回廊、上の御堂、鐘楼などと共に寄進したとのこと。二天が祀られている。

南大門から道を挟んで一直線上正面に西方院の山門がある。新西国霊場札所である西方院は出家した三人の侍女(蘇我馬子の娘、小野妹子の妹、物部守屋の娘)により叡福寺門前の塔堂として法楽寺の寺号で創建されたという。

叡福寺は近鉄南大阪線上ノ太子駅から約2.5キロの南河内郡太子町にある。



南大門から入って正面の二天門から御廟を参拝 2010.2.7 撮影

### 3 禅林寺 当麻寺

大阪府と奈良県の県境にある二上山の東麓に当麻寺がある。

この寺は612年(推古天皇20年)に、聖徳太子の弟麻呂子親王が太子の教えにより創建したといわれている。当初は萬法蔵院禅林寺と号したが、親王の孫の代には当麻氏と称したことから寺号も当麻寺と改められた。

奈良の寺院で、一番自然に囲まれて静かな佇まいの、広い境内には、金堂本尊の弥勒仏、国宝三重塔の東西両塔など多くの国宝指定物がある。

前方後円墳を横から見たように見える二上山は、文字通り北の雄岳と南の雌岳の双峰があり、東側から眺めると夕日が二上山の間に沈むことから西方極楽浄土の霊山と崇められている。夕日が双峰の真中に沈むのは3月11日だとのこと。カメラマンが特に注目すべきタイミングでしょう。

当麻寺駅から参道を歩いて約15分のところに当麻寺の山門がある。参道沿いの白壁や黒壁が落ち着いた佇まいを見せている。その屋根には福を呼ぶように七福神がお立ちになり、閑静な町並を穏やかに見守って居られるご様子である。

山門には特に大きな仁王像が両側に立ちはだかつて、文字通り当麻寺を守っている。外を睨みつけている形相が印象的であったが、それでも何処かやさしさ安どを感じるのは私の気のせいでしょうか。

半世紀以上の昔、両親に連れられて故郷の神社にお参りして仁王様を見た時、子供心に怖かったことを思い出した。資料によっては、この山門のことを南大門とも東大門とも記している。

この山門を入れて正面に鐘楼が見える。この鐘楼には、現存する最古といわれる梵鐘が吊られている。



当麻寺 境内 鐘楼手前より山門を望む 2010.10.1 撮影

#### 4 蓮土山道明尼寺

「道明寺略縁起」によりますと、当寺は菅原道真公が信心をこめて手ずから刻まれた（880年道明寺に滞在した時期）国宝十一面観世音菩薩像を御本尊とする古義真言宗の尼寺といわれている。

仏法に深く帰依された聖徳太子が尼寺を建立されるに当たって、代々仏教文化導入に積極的であった土師氏（大化の改新以前の古墳造営や埴輪制作、皇室儀礼に携った氏族）が邸宅を太子に寄進した。

広大な境内に五重塔、金堂等をはじめとする七堂伽藍が完成し、これが当寺の前身となる土師寺である。後に菅原道真公によって道明寺と改められ、数多くの仏像、教典美術工芸品など宝蔵されていた。

菅原道真公が太宰府に下向されるとき（901年）、叔母（土師氏子孫菅原是善の妹）覺寿尼を訪れて別れを惜しまれた。当尼寺に立寄られ一首残されている。

「啼けばこそ別れもうけれ鶏の音の

鳴からむ里の暁もかな」

戦国時代（1573年）の兵火で焼失したが、織田信長、豊臣秀吉、徳川代々の将軍家などの庇護によって復興され、朱印地に認められた。

大正八年には本堂が落成され、現在は多宝塔も建立されている。

山門から見て正面に見える大師堂、その奥にある立派な庫裏の大玄関前には砂が敷かれていて、しっとり落ち着いた佇まいである。如何にも歴史的由緒ある尼寺ならではの静かな雰囲気漂っていて、正に悠久の空間にタイムスリップした様な感じであった。



山門正面奥に大師堂 2010.10.1 撮影

## 5 佛頭山 橘 寺

橘寺は用明天皇の第二子聖徳太子生誕の地で、当時欽明天皇の別宮「橘の宮」があったところ。寺伝によると、聖徳太子が606年に推古天皇の仰せにより、勝鬘経を3日間にわたりご講讃になったところ、庭に蓮の花が降り積もる等不思議なことが起こったといわれている。そのため天皇は太子に寺院の建立を命じた。そして、聖徳太子建立七カ大寺の一つに数えられている。

太子は中央集権化と官司制の基礎を築いた。さらに仏教興隆をもたらした功績は高く評価され、その拠点となった飛鳥寺が橘寺に近い明日香村真神原に立っている。飛鳥寺は蹴鞠(毎正月下鴨神社で挙行)をしていた中大兄皇子(天智天皇)と中臣鎌足(藤原鎌足)が運命的な出会いをしたところとも伝えられている。

橘寺には金堂、講堂、五重塔等の堂舎があったが、その後の雷や戦による焼失と再建が繰り返されてきた。五重塔は再建されず、塔の跡に心基が残っている。現存の本堂、観音堂は1864年に多くの人々の力により再建されたものである。

本堂の本尊は国重要文化財「聖徳太子勝鬘経講讃像(当時35歳)」である。

観音堂の本尊も同じ重文で「六臂如意輪観音菩薩像」である。

橘という地名は日本書紀によると、今から約1950年の昔、田道間守が垂仁天皇の勅命を受けて、常世国の不老長寿の薬を求めて海を渡り10年後に、ある種を持ち帰って、この地に蒔いて出てきた芽が橘であったという。そのため、この地を橘と呼ぶようになったとのこと。

橘は蜜柑の仲間では唯一の野生本種であり、酸味が強く食用には適さないが不老長寿の妙薬として珍重されていた。余談になるが、1895年に創建された京都平安神宮にも植えられて「右近の橘」として大きく茂っている。

本堂には当時橘の種を持ち帰った田道間守の像も祀られている。



橘寺境内より東門を望む 2010.10.1 撮影

# 写真と絵画でみる竹内街道

## 写真と絵画の作品展

### 1 写真と絵画の作品展目録

#### 写真の部 . . . . . 出展者

廣海泰次郎

- 1 古代にも噴水があった
- 2 大和の歴史を伝える家々
- 3 飛鳥の春
- 4 今に生きる古代の瓦 (元興寺)
- 5 古代の戦乱を偲ぶ (入鹿首塚)
- 6 聖徳太子誕生の地 (橘寺)
- 7 聖徳太子を輿にのせて太子道を行く
- 8 竹内街道は伊勢詣での道でもあった。
- 9 渡来人の石像技術を偲ぶ (鹿谷寺あと)
- 10 豊作を神に祈り、収穫は天皇に捧げる (田遊びと農耕)
- 11 千年杉倒れる
- 12 歴史街道に思いを馳せて (太子町の灯路祭り)
- 13 四天王寺界限 (寺の町、坂の町)
- 14 四天王寺界限 (庚申さん)
- 15 航海の安全を祈って遣隋使も祈願 (住吉神社)
- 16 新年の吉祥を祈り終わってどやどや
- 17 聖徳太子により迎えられた篝の舞楽
- 18 万灯供養
- 19 難波の宮を偲ぶ (難波の宮)

#### 絵画の部 . . . . .

出展者

- |    |               |      |
|----|---------------|------|
| 1  | 竹内街道の伝統的景観 I  | 藤田昭治 |
| 2  | "    II       | "    |
| 3  | "    III      | "    |
| 4  | 道明尼寺の景観       | "    |
| 5  | 当麻寺の景観 I      | "    |
| 6  | "    II       | "    |
| 7  | "    III      | "    |
| 8  | 叡福寺の景観 I      | "    |
| 9  | "    II       | "    |
| 10 | 橘寺の景観 I       | "    |
| 11 | "    II       | "    |
| 12 | 竹内街道の伝統的景観 IV | 岩崎泰三 |
| 13 | "    V        | "    |
| 14 | 遣隋使も詣でた住吉大社   | "    |
| 15 | "    船玉神社     | "    |
| 16 | 当麻寺の景観 IV     | 櫻井弘司 |
| 17 | 長尾神社物語        | "    |
| 18 | 太子所縁の街道       | "    |

## 2 絵画出展作のリストと絵画出展作品

藤田昭治

No	タイトル	キャプション	備考
1	竹内街道の伝統的景観Ⅰ	国登録文化財大和屋根の旧山本家	縦型
2	竹内街道の伝統的景観Ⅱ	茅葺大和屋根の見える歴史国道	縦型
3	竹内街道の伝統的景観Ⅲ	歴史を物語る蔵のある風景	横型
4	道明尼寺の景観	庫裏の砂面に浮く敷石のある空間	横型
5	当麻寺の景観Ⅰ	参道民家の土塀屋根に立つ恵比須様	縦型
6	当麻寺の景観Ⅱ	参道民家の土塀屋根に立つ大黒天様	縦型
7	当麻寺の景観Ⅲ	山門の仁王像(阿形像と吽形像)	横型
8	叡福寺の景観Ⅰ	西方院から南大門と御廟を望む	縦型
9	叡福寺の景観Ⅱ	南大門と多宝塔の幾何学的空間	縦型
10	橘寺の景観Ⅰ	国重要文化財 観音堂(如意輪観音像安置)	横型
11	橘寺の景観Ⅱ	橘寺と棚田を彩る彼岸花	縦形

使用画材 画用紙は色紙の F6 形。

絵具は 12 色の顔彩・墨汁及び細字型グラフィック用水性ペン。

2 絵画展作品 リスト NO.1



竹内街道の  
伝統的景観  
NO.1~3

リスト NO.2



リスト NO.3



リスト NO.4 道明尼寺



リスト NO.5



当麻寺参道  
の七福神  
NO.5~6

リスト NO.6





リスト  
NO.7  
当麻寺仁王像

NO.9



叡福寺  
NO.8~9

NO.8



NO.11



NO.10



橘寺の景観 NO.10~11



### 3 展示会場の対話と新聞記事

会場は大阪市立中央図書館の一階エントランスホールギャラリーで、地下鉄千日前線西長堀駅の7号出入口（エスカレータ）を上って直ぐ西側にある。

西区の静かな住宅地域の中央にあり、立地条件としては、通勤通学のアクセスに恵まれた位置にある。ギャラリーはその図書館や地下鉄を利用する人の通路にもなっており、展示会招待者以外にも多くの人に作品を見ていただくには丁度よい環境である。

試しに通行者数を調べると往復ともに一時間にざっと200人で、少なめに数えてもその約二割の方が立止まって見て下さいました。従って一日で300人以上、13日間で4200人以上の方々をご覧になったという計算になります。

出展のどの作品も素晴らしく、写真や絵画に興味をお持ちの通行者の方々も夫々好みがあって、あれこれ好きな作品についての感想を話しながら楽しんで下さいました。

配布した目録を確認しながらじっくり見て下さって、作者の想いを感じ取って下さった方も大勢おられました。毎日通り、その度にご覧になる方もおられました。

「うまい、懐かしい、綺麗あるいは面白い」等ご覧になった方々の話題に上がっていた作品を、各出展者毎にあえて3点ずつに絞るとすれば大体次の通りであったように感じられました。

- ・写真—ポスターの「土塀と柿の木」「大和の歴史を伝える家々」「寺の町、坂の町」
- ・絵画—「竹内街道ⅣとⅤ」「住吉大社の反橋」「当麻寺の増長天像」「長尾神社物語」「太子所縁の街道」「竹内街道Ⅲ」「叡福寺の多宝塔」「橋寺の観音堂」



また、歴史に詳しい方から興味ある話をお聞きしたり、撮影とスケッチによる風物を教えて下さったり大変勉強にました。

近畿大阪支部版

## CVVが第2回写真・絵画展示会

大阪市立中央図書館で15日まで



土木学会関西支部の共同会「を開いている」写真・研究グループ、FCC（フ）期間は15日まで。オラム・シビル・コスモの展示会は、CVVホス）のOBらで組織するチーム内で、会員投稿「シビル・ベテランズ&ボの絵画や写真などを掲載するランティアズ（CVV）」る「CVVギャラリー」の（代表・松井保人大阪大学名 活性化と会員相互の親ほく 警教授）は、3日から大阪 を図る目的で実施している 市西区の大阪市立中央図書 もの。09年のCVV設立10 館1階エントランスホール 周年を機に始めた。 で「第2回写真・絵画展示 2回目となる今回は、

### 四季折々の街道風景紹介

「歴史街道を行く」をテーマに、日本最古の官道（国道）として知られる竹内街道を、廣海泰次郎氏が撮影した写真19点と藤田昭治氏、岩崎泰三氏、櫻井弘尚氏の3氏が描いた絵画18点で紹介。訪れた人らは四季折々の街道風景や、それぞれの作品が持つ構図・色づかいを楽しんだ。

今回出展者一同



## あ と が き

展示会開催については、冒頭のごあいさつに縷々述べられていますが、CVVのメンバーで写真家の廣海さんに誘われるままに、テーマとなった竹内街道を歩き、この街道が日本の歴史と文化に深く関わってきたことを改めて思い起こしました。古稀を迎えた男が、はるかなる昔の祖先の営みを連想しながら、暫しゆったりとして満たされた時間を過ごすことが出来ましたこと、心より感謝申し上げます。

絵画制作に当たって、私が注目した点は、本文5頁の「絵画のテーマを求めて竹内街道を歩く」に記載のとおりで、テーマとしての風物を選定するために

- ・特に印象的で、絵になる風物であるか
- ・歴史的文化遗产としての魅力を感じるか
- ・著名な風物であるか

などを吟味しました。また、絵の構図を決めるポイントは

- ・その風物の何を、どこを切り取るか、
- ・構図としてのバランスがとれるか

ということでした。

半年以上かけて制作に取り組んできた結果、私の自己満足ですけれども、これらの試みが成功したと思っております。

これはひとえに今回の合同展示会をご提案いただいた廣海さんをはじめ、皆さんの注目を集めた「竹内街道の伝統的景観」等を出展していただいた岩崎さん、テーマに趣を添える「太子所縁の街道」等を出展していただいた櫻井さんのご支援ご協力のおかげと感謝いたしております。

大自然に包まれて存在し続けて来た悠久の時空間を満喫し元気をいただいて、その自然のパワーに感謝する想いもありました。その拠り所としての歴史的文化財の中でも特に神社仏閣を描かしていただくことに、感謝を込めて参拝しました。

私にとって今回の展示会開催の成果は大きかったし、素人なりにこれらの絵を描いていた時の楽しさを、改めて噛みしめております。

出来ることなら、この機会に CVV のメンバーやご縁のあった方々が、一人でも多くこの趣味に取り組んで頂いて、お互いに親交を深めたいと願っております。ご高覧賜りありがとうございます。

平成 22 年 12 月

文・写真 藤田 昭治

CVV 第 2 回写真・絵画展示会

# 「歴史街道を行く」

2010年12月3日(金)～12月15日(水)

月～金曜日 9:15～20:30、土・日曜日 9:15～17:00

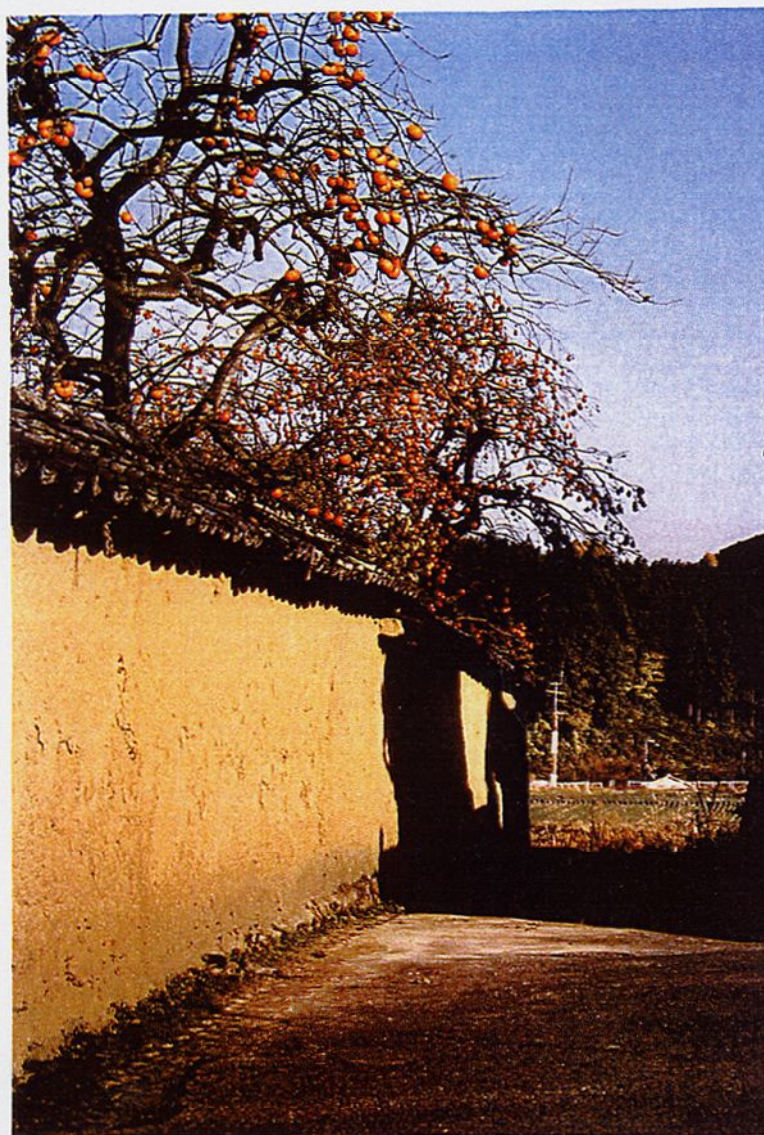


写真 廣海泰次郎

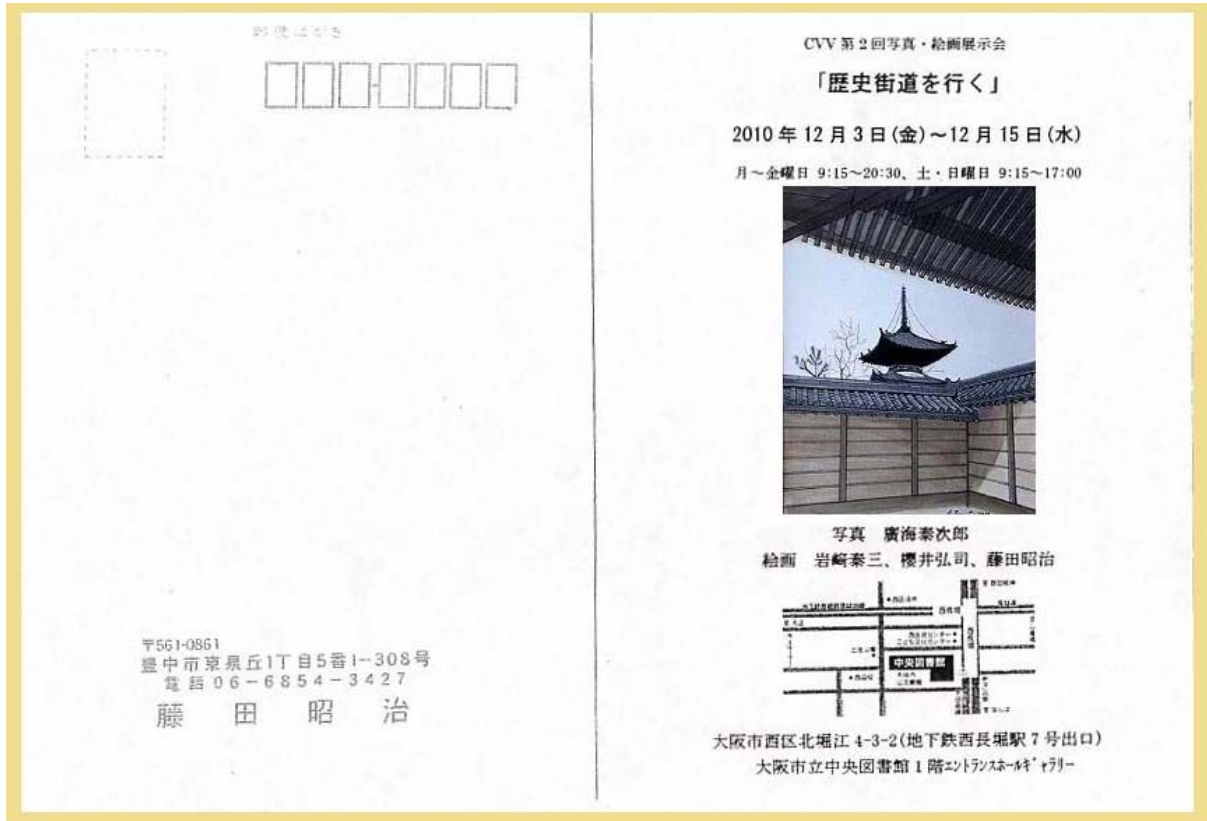
絵画 岩崎泰三、櫻井弘司、藤田昭治



大阪市西区北堀江 4-3-2 (地下鉄西長堀駅 7 号出口)

大阪市立中央図書館 1 階エントランスホールギャラリー

ご招待用ハガキ



< 参考資料 >

- 1 大阪府土木部の街道ウォーキングマップ  
「むすぶ道、であう道 竹内街道」
- 2 道明寺の「河内国道明寺略縁起」
- 3 磯長山叡福寺の「河内国上ノ太子磯長山叡福寺縁起」
- 4 橘寺入場券の「聖徳太子誕生所 新西国第十番霊場 別格仏頭山橘寺」  
と案内資料の「橘寺の創建と変遷」
- 5 楽学ブックスー 文学歴史Ⅰ  
林 豊著「古事記・日本書紀を歩く」
- 6 竹内街道沿線の神社仏閣その他について  
ーインターネット検索資料ー